

【監修】 <https://seikatsu.care>

一般社団法人F-SOAIIP実践 教育研究所 埼玉県立大学 尾末憲子

国際医療福祉大学大学院 小嶋章吾

### 障害福祉サービスにおけるF-SOAIIP研修結果と活用への展望 〜ニーズ指向の多面的アセスメント力向上をめざして〜



国立障害者リハビリテーションセンター  
自立支援局  
第一自立訓練部 視覚機能訓練課

主任機能訓練専門職 **納富 祐輔**

※「IPWを促進するF-SOAIIP研修」  
(2023埼玉県立大学「専門職連携を学ぶ講座」) 修了

#### ●はじめに

国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局(以下、自立支援局という)は、自立訓練(機能訓練・生活訓練)、就労移行支援等の障害福祉サービスを提供する多機能型の施設である。北海道函館市、埼玉県所沢市、兵庫県神戸市、福岡県福岡市、大分県別府市のそれぞれで障害福祉サービスを提供している。自立支援局では、生活支援担当職員等を対象に研修を実施しており、その中でF-SOAIIPをテーマにした研修会を実施した。その経緯や今後の展望について記したい。

#### ●研修会実施までの経緯

自立支援局では、多職種によるチームアプローチで支援を行っているが、サービスによっては生活支援を担当する職員(社会福祉士)も訓練を提供する機会がある。生活支援および訓練を提供するに当たっては、アセスメントを行う力が重要であるが、経験の違い等によってこの「アセスメント力」に差が生じていることが課題ともいえる。そこで、自立支援局の各施設の職員を対象にした研修会の中で、「アセスメントする機会を日々の支援の中で習慣化させる」ということを目的に

F-SOAIIPの記録法を活用することを検討した。監修者に相談したところ、障害福祉分野での活用を促進したいということで、私がリーダー養成研修(※)を受講し、伝達研修という形で自立支援局の研修会にて講義することとなった。

#### ●研修会の実施

研修会は、「アセスメント力を磨くための生活支援記録法(F-SOAIIP)の活用について」と題して実施した。①ニーズとは何か、②ニーズを把握するためにアセスメントが必要であること、③日々の支援の中でアセスメントする視点を持ち続けること、④アセスメントを習慣化するための1つの方法として、生活支援を担当する職員が記録する叙述形式の「ケース記録」や「訓練記録」の中にアセスメントの視点を落とし込んでいくこと、⑤F-SOAIIPはアセスメントの視点に合わせてストレングス(強み)に着目すること、⑥アセスメントを

受けての職員の対応やこれからの計画の記載により一連の支援過程で何を考え、どう対応したかの流れが見えることなどを伝え、⑦実際に自作のワークシートによる演習等を展開した。

#### ●今後の展望

現在のところ、F-SOAIIPを用いて日々のケース記録や訓練記録を書くことが広

く浸透しているとは言えない状況であるが、伝達研修を受け、個人単位や各施設でも取り入れようという動きが見られる。今後も自立支援局内での研修を実施しながら、最終的には各記録を入力する支援システム等への活用や、国立施設の役割の1つでもある情報発信につなげていけるように微力ながら精進していきたいと考えている。

**【本人から相談】**  
本人の居室を訪問した際に本人から相談あり。  
「今度の誕生日で20歳になるんですけど、母から障害年金の申請をしたいと連絡があったので申請手続を手伝ってもらえますか。」とのこと。  
母親は知り合いから障害年金のことを聞いたが、手続の方法はあまり分かっていないとのこと。本人は母から聞いてお金がもらえると認識している。  
担当CWからは、障害年金の申請に係る書類について説明し、診断書や受診状況等証明書を作成はかかりつけ医に依頼すること、本人・家族で作成する書類があるため、その書類については本人が記載し、担当CWも内容を確認しながらサポートできることを説明。本人も了解。本人はお小遣いとしてもらえると思っている様子もあり、楽しみにしているようであるが、金銭管理面に課題もあることから、これを機に金銭管理などが自身でできるように働きかけることができないか、母親とも相談することとした。

図1 叙述形式による記載例(ケース記録)

**【本人の居室を訪問した際に本人から相談】**  
F: 障害年金申請にかかる対応  
S: 今度の誕生日で20歳になるんですけど、母から障害年金の申請をしたいと連絡があったので申請手続を手伝ってもらえますか。  
O: 母親は知り合いから障害年金のことを聞いた。手続の方法はあまり分かっていない。  
O: 母から年金のことを聞いてお金がもらえると認識している。  
A: お小遣いとしてもらえると思っており、楽しみにしている。  
A: 金銭管理面に課題もあることから、これを機に金銭管理などが自身でできるように働きかけることはできないか。  
I: 障害年金の申請に係る書類について説明し、診断書や受診状況等証明書の作成はかかりつけ医に依頼すること、本人・家族で作成する書類があるため、その書類については本人が記載し、担当CWも内容を確認しながらサポートできることを説明。  
P: 自身での金銭管理につなげていけるよう、母親とも相談する。

図2 F-SOAIIPによる記載例(ケース記録)

## 異動のある社会福祉事業団でこそ 書きやすく・読みやすいFISOAIPの効用発揮を



社会福祉法人さいたま市社会福祉事業団  
児童発達支援センターはるの園  
相談支援専門員  
石田 裕子

対人支援専門職として記録方法を学ぶ機会がなく、とても苦手だと感じていました。普段何げなく書いている記録ですが、自由記述が前提となっている場合が多く、時間や労力を要するのが記録業務だと思います。FISOAIPを知り、本事業団において数年越しで念願だった記録に関する研修が実現できました。

### ●研修を受けての学び

FISOAIPの導入により、①記録時間短縮だけではないこと、②自分たちのやりがいにもなるということ、③読み手に分かりやすくなり、利用者にとっても分かりやすくなる

こと、④項目ごとに分けて記入することで、後から見返したときに課題やそれに対する対応などが分かりやすいくこと、⑤必要なことが簡潔にまとまることが、⑥記録の方法に統一されたルールを用いることで、様々なメリットがあること、⑦叙述形式と比べ、要点を押さえて記録をした方が、見直しの時などに見やすくなること⑧多職種連携のツールになるということ等を学びました。

研修では、FISOAIPを活用することで、読み手の時間短縮にもつながることもメリットではないか、多職種の共通のツールとして事例検討などに活用していき、記録技術の定着を図れると良いのではないか等の意見も出しました。

### ●FISOAIP導入・活用の展望

今後、事業団内でのようにICT化を進めていくかは未定ですが、どのようなシステムにも対応できることは魅力的なもので、異動のある事業団でこそ活用するのが望まれます。実際にFISOAIPを導入するとみると、考えながらで時間もかかるかもしれませんが、ぜひ進めていきたいと思っています。

最初のうちは記入に時間がかかりませんが、少し慣れれば活用しやすくなります。訓

練期間を設け、取り組みの事例を皆で振り返る機会を持ちながら、やり方を深めていくのではないのでしょうか。

FISOAIPは、利用者と専門職との対応関係の全ての行為を明らかにするツールであり、多職種連携もこの記録法で促進されると思います。「記録が変わると、実践も変わる」という言葉が大変印象に残りました。FISOAIPの導入・活用を通じてこのことを実践していきます。

### 監修者コメント

FISOAIPで障害福祉領域の横断的な諸課題解決を  
重層的支援体制整備事業やDX推進に向けた障害福祉行政主導の好事例として、沖縄県うるま市による地域関係機関の相談職やケア職等とも協働したFISOAIP搭載記録システムの独自開発が注目される。本市の障害領域における委託業務ではFISOAIP導入が要件とされている。

このような中、今回の二つの実践現場のFISOAIP導入に向けた先駆的な取り組みは模範となるだろう。

FISOAIPの貢献は、本年度障害福祉サービス等報酬改定における支援機能・体制充実、権利擁護や医療機関との連携等についても、高齢領域と同様に期待される。なお、医療的ケア児を巡っては、FISOAIP先進例として医療型障害児入所施設や国立病院の重症心身障害病棟が参考になる。

F：通常級・支援級の選択提案  
S：支援級のままがいい。通常級は嫌。  
支援級に戻ると言ったらパパとママに怒られる。  
S（両親）：支援級にいと勉強が追い付けないので通常級を希望  
皆と同じクラスの一員として扱われる経験をさせたい。  
O：療育手帳なし。軽度知的障害。小4。支援級に在籍する男児。  
2カ所の放デイを利用。AはSST等が中心、Bは学習中心の事業所。  
O（母）：学校の学習は1年半遅れている。個別指導塾で算数と漢字をやっている。  
本人は追い込まれないとやらないタイプ。  
通常級に行ってから支援級に戻ることもできる。  
O（担任）：どっちにするか微妙なところで、どちらでもあり。  
O（A）：ストレスで独語が増えている。  
O（B）：学習面で難しい。漢字は答えをみながら、算数は掛け算もおぼつかない。  
A：支援級の方が本人に合っているのではないか。  
通常級に行くことは負担になるのではないか。  
やってみてダメなら変更する方が、家族も納得できそう。  
障害が軽度なため、家族の障害受容がまだできていないのかもしれない。  
I：少しがんばればできることなのか、学習面は精神論では難しいこともある。  
その見極めが必要だと思うことを伝えた。どちらに行っても本人次第。  
本人が辛い、行きたくないとならないように考えてはどうかアドバイスした。  
P：どちらに決めたら、ご連絡をいただくことにした。  
関係機関に面談の内容を後日共有していく。

図3 FISOAIPによる記載例（相談記録）